

# 勝林寺寺報

## 塵を払い

### 垢を除こう

お釈迦さまの弟子にマハーパンドカとチューラパンドカという兄弟がいた。兄の方はすばらしく頭がよいのに弟は全然だめなのである。

弟のチューラパンドカは頭が悪くて教えを少しも覚えぬ。兄が怒ってこの弟を教団から追い出すのである。

お釈迦様が、門のところまで泣いているこの人を見付けて「何を泣くのか」とたずねられる。「私が教えを覚えぬので兄に教団を追い出されました」と言うと、一緒に連れてゆかれ、白い布をわたして、修行僧が集まってくるときに、講堂の入り口のところに座って、ひとりひとりに合掌し、サンダルを拭く仕事をさせられる。そしてその度に、「塵を払い垢を除こう」となえよと教えられる。

ほんとうはこの人は頭が悪いのではなく、今でいうノイローゼである。兄や周りの人達からワイワイいじめられると、こゝとばを出そうと思っても出てこない。口が動かなくなる。こういう症状をお釈迦さまはよく知っておられて、頭を上げず人の顔を見ないで、ただひたすらに合掌し、大ぜいの人々の助けになるような仕事をさせられたのである。

そうするうちに、みんな出てゆく時に「チューラパンドカありがとう」と手を合わせてお礼をいうようになる。互いにそのうちだんだん気持ちがあがれてきて、ある日突然、ごく自然にしゃべれるようになるのである。

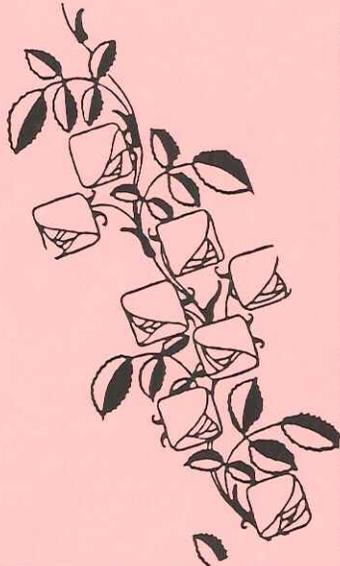
ちょうどその日、長者の家に招かれ研修会が催された。ところがやはりチューラパンドカだけはその人数に加えるわけにはいかないという。するとお釈迦さまが「彼つまらぬ人間かどうか、一度呼んで確かめてみよ」といわれる。それでチューラパンドカも行く。「おまえ、今日はお説教しなさい」といわれた。

態度といい、ことばといい、内容といい実にりっぱなものであった。  
お釈迦様も、チューラパンドカも、そしてすべてのひとびとが、あらためて手を合わせて合掌しあい礼拝しあつたのである。  
(仏典講座「維摩経」より)

## 拝む手で

### 明るくほぐそう

#### 世のもつれ



## 葬儀

十二月二十三日

横見

横山 貞二様

## 慈光はるかに

### かむらしめ

如来の光りに  
つらぬかれて  
生きぬこうと

がんばりましょう

## 賀正

勝林寺住職 西池 哲俊

後継住職 西池 功

西池 卓馬

西池 匡

西池 深音

西池 秀子

西池 由衣

西池 美幸

92 (平成4) 年

一月のこよみ

- 一日 修正会 初詣で
- 四日 但東町 初詣で
- 五日 榎見報恩講
- 六日 榎見報恩講
- 七日 坪口報恩講
- 八日 坪口報恩講
- 九日 本山
- 十日 本山・玉日会
- 十一日 門徒総代会
- 十二日 坪口女中講
- 十五日 榎見女中講
- 十六日 谷垣律夫氏宅法事
- 十六日 湯口美行氏宅百ヶ日
- 十六日 十六夜会(勝林寺)
- 十八日 和屋報恩講
- 十九日 山田豊氏宅法事
- 二十日 姫路寺族婦人同朋講座
- 二十二日 本山
- 二十六日 木上哲氏宅法事
- 二十七日 みのりを聞く会
- 二十七日 本山

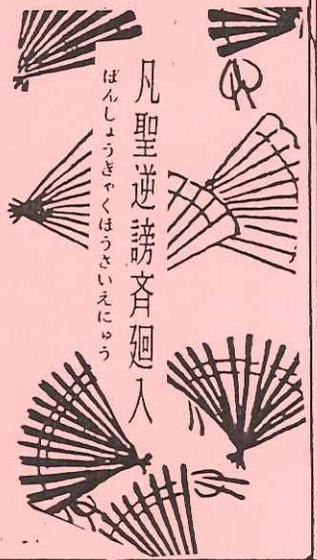
## 念仏の声を 世界に 子や孫に

子供や孫たちは、いつとはなしに、宗教のこととは年寄りのすることでお念仏はご祈禱おいのりのことばぐらいに思いこまされてしまっています。

勝林寺寺報を若い子供や孫に読んでもらってください。勝林寺寺報を都会に出ている子や孫に送るように申し出てくださいます。

これが今の子育て孫養いの要です。

勝林寺寺報をを広げましょう。



日を送り  
人を送りて  
この一年。

過ぎた一年の間に、送り送った一日一日を  
思いかえし、別れ送ったあの人のこの方のこと  
を偲ぶこのごろであります。  
日を送り人と別れるのが人生であるなら、  
こんな悲しいことはありません。  
しかしこの悲しい別れを縁にして、この  
世では出会えない量り知れないのちと出会  
わせていただけたことを歡喜することであり  
ます。

仏法には昔から 生死即涅槃 煩惱即菩提  
ということがあります。

大乘仏教の神髓を示すこのことばは、とき  
にしばしば生死煩惱の生き方をなんの痛みも  
なくそのまま肯定許容してしまう危険を孕ん  
ではいましたが、いまはそうではないと知ら  
されております。

「不断煩惱得涅槃」とおっしゃる親鸞さま  
は「生死の苦悩や煩惱や罪業をご縁に、お念  
仏に出会わせていただくとき、その生死・  
煩惱・罪業を、それなるがゆえ丸ごと包み生  
かしてくださる量り知れない如来おさりの  
いのちに生きかえらせていただくのだ」とお  
しえてくださったているのです。  
「往生めでたし」とはその歡喜であったの  
でしょう。

東井義雄先生(但東町佐々木 東光寺前住  
職)が四月十八日、突然ご往生なさいました。  
亡くなる少し前お会いしたとき、先生は例の  
カバンのなかから取り出して、いろんな人か  
らもらわれたお見舞いの手紙やそれに対する  
先生のお返事(みんなキチンと原稿用紙に整  
理してありました)を見せてくださいました。  
そのことが最近「信仰」という雑誌に紹介さ  
れていましたのでそれを転載いたします。

先生ご自身が癌で、その上に後継者のご長  
男が意識不明のまま床に伏すという重症で、  
入院なさってもう一年になるという、なんと  
もおいたわしい苦悩の先生に当って、北海道  
の見ず知らずの人から手紙が届けられたのだ  
そうです。

『阿弥陀さまや親鸞さまを頼りにし、法華  
經に尻を向けているから、仏さまが「仏罰  
がっばち」をお当てになつたのです。日蓮  
大聖人様も「念仏無間」とおっしゃっている  
ではありませんか。「念仏無間」のおことば  
そのままたまのことに会っておられるのです。  
寺の住職としての体面もあるでしょうが、そ  
んなものはいさぎよく振り捨てて、法華經と  
日蓮大聖人に帰依しなさい。災難はたちまち  
に消滅します。私が、自分の体験で申し上げ  
ているのです。ましがいはありません』

ところがこの人に対して東井先生は丁寧な  
返事を出されているのです。『私は半世紀  
以上も学校の教員を勤めてきましたが、勉強  
のできない、頭の悪い子を見捨てたり、教師  
のいうことを聞かないで非行を重ねる子供を  
罰で脅したり退学させたり、告訴したりする  
教員にだけはなりたくないと考えてきました。  
如來さまに逆もむき、如來さまを誹  
する罪をさえも犯してきた私を、如來さ  
まは罰することもなさらず、憎むこともなさ  
らず、見捨てることもしないばかりか、  
ひたすら愛し、ひたすらに私の目覚めを待ち  
ひたすらに生かし続けていてくださったので  
す。気が付いてみたら逆もむいていた真っ  
最中も誹もしていった真っ最中も、私は阿  
弥陀さまのお慈悲のどまんなかになっていたの  
です。私どもがただ今、大変つらくきびしいこと  
にであっているのは事実ですが、これは「仏  
罰」などではなく、私どもが長い間、しらす  
知らずの間につけてきた「因たね」や「縁」  
によるもので、つつしんでお受けするしかあ  
りません。それにつけても「たとい罪業  
は深重 じんじゅうなりとも」必ず救うと呼  
んでくださる「阿弥陀さま」をいよいよたの  
もしく仰がせていただくばかりです。どうか  
ご縁がございましたら、あなた様も「凡・聖・  
逆・誘・奇廻入」(凡夫も聖人も、またそむ  
くものも、仏法をそしる人さえも、ひとしく  
摂おさめ取ってくださいる「阿弥陀さま」の  
および声に耳を傾けてくださるようお願いい  
し上げます』

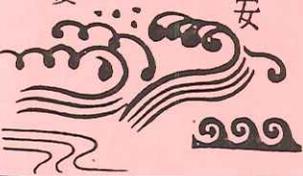
東井先生も坊守もまたあの人も、「めでた  
き往生」をとげられたあとを偲んで、新しい  
年をわたしもまたお念仏のなかに生かさせて  
いただくことであります。

【材料】 水 五カップ  
【作り方】 ①ごまをい  
【作り方】 ①ごまをい  
五分間つける。  
②③をミキサーにかけ  
カップの水を半分に分けて二度ミキサー  
にかけようにする。  
④一回目のミキサーに三分ほどかけたも  
のをさらしの布袋で絞って漉す。  
⑤そのかすをもう一度残しておいた半分  
の水でミキサーにかけてしぼる。  
⑥しぼり汁に片栗粉を入れてよくとかし  
火にかけて練りあげるとクリーム状にな  
るときにしっかりと混ぜないとなめらかに  
ならない。(分量によってちがうが約十分  
⑦⑧分練り上げる)  
⑨出来たものを冷ましてしょうが醤油また  
はしょうがあんをたべる。  
【参考】 ビーナツ豆腐の場合も分量は同じ  
カップ一杯のゴマで大体五人から  
七人前が作れます。(仏婦提供)

### 年中行事予定

(二月以降)

- 二月
  - 五日 本山
  - 八日 滋賀教区
  - 十日 代議員△△
  - 一六日 仏壯総△△
  - 二三日 仏婦評議員△△
- 三月
  - 五日 本山
  - 八日 法輪△△春季研修
- 四月
  - 二二日 本山
  - 二〇日 倉吉妙寂寺彼岸会
  - 二二日 同
  - 二二日 同
  - 二二日 同
  - 二八日 慶讃法要
  - 二九日 同
  - 三〇日 同
  - 三〇日 本山
- 四月
  - 一八日 本廟戦没者追悼法要
  - 二九日 名古屋宗円寺



- 五月
  - 一四・一六日 神戸別院定例法座
- 六月
  - 二〇・二二日 研修旅行予定
- 七月
  - 八日 永代経・仏婦
  - 総△△
- 八月
  - 二四日 坊守一周忌法要
  - 二五・二六日 銀杏会
- 八月
  - 八日 戦没者追悼于血蘭
  - 分△△法要
- 中旬
  - お盆まいり
- 二〇日
  - しども研修△△
- 九月
  - 六日 出石組総代研修△△
- 一八・九日 小倉傳因寺彼岸会
- 二六日 彼岸△△法要
- 十月
  - 二四日 別修敬老報恩講
- 十一月
  - 八日 法輪△△
  - 二二・二三日 報恩講
- 十二月
  - 三日 除夜△△

『勝林寺寺報』 毎月一日発行  
テレホン法話 月三回変わります  
玉日会定例 毎月十日  
十六夜会定例 毎月十六日(勝林寺)  
みのりを聞く会 毎月二十八日

出石組連研  
四月二十六日  
七月十九日  
九月二十七日

